

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

第六號

19

八幡製鋼補設工事完成后、製鋼能力(未完)

昭和十三年一月

本店

荒川

日本製鐵株式會社

日本標準規格 B4 (257 x 364mm)

八幡=於ニ補設々備完成ナル場合、生産能力=就テ、考案
 第八期、成績=依、

(A) 第二製鋼 製鋼時間一炉当 普通法 19,581 + 合併法 14,935 = 34,520
 10 基 $\div 34,520$

一炉当製鋼回数 普通法、ミ=依ル場合 $\frac{34,520}{8.4} = 4,111$ 回
 合併法 " $\frac{34,520}{5.9} = 5,850$ 回

一々年=換算 普通法 822 回
 合併法 1,170 回

200 瓩混鐵炉=基ニテ合併法可能能力、 $\frac{2,538}{5.85} = 44$ 基平炉
 故=約四基ト見做スコトヲ得

300 瓩混鐵炉一基ハ平炉三基トス

(1) 煉鐵豐富ナルヲ 2,000 瓩二基 300 瓩一基、混鐵=テ、他ノ
 設備、合併法=可能ナルモノトシテ全部合併コトヲス時ハ

日本製鐵株式会社

平炉七基、合併法=ヨルコトヲ得ベシ
 普通法 $822 \times 3 \times 65 \div 160,000$ 瓩 } 300 瓩混鐵一基増設
 合併法 $1,170 \times 7 \times 65 = 532,000$ } $= 311,692,000 - 630,000$
 計 $692,000$ } $= 628,000$ 瓩、ト增加

(2) 若シ煉鐵充分ナラズニテ 300 瓩混鐵ヲ平炉トシテ使用スルコトハ
 300 瓩混鐵炉 $120 \times 1 \times 800 = 96,000$ 100 瓩=改造?

普通法 $8220 \times 6 \times 65 = 322,000$
 合併法 $1,170 \times 4 \times 65 = 304,000$
 計 720,000

①ト②トノ差 $720,000 - 692,000 = 28,000$
 300 瓩混鐵ヲ平炉トシテ使用スルコトハ
 $720,000 - 630,000 = 90,000$ 瓩增加トスル

0000 0113

(B) 第七期 = 依心場 合

製鋼時間 $\frac{\text{普通法} 20141 + \text{合併法} 14678}{10 \text{ 基}} = 3,482 \text{ 時間}$

一炉当り製鋼回数 $\frac{\text{普通法} 1 \text{ 基} = 3482}{8.26} \approx 422 \text{ 回}$

合併法 $\frac{3482}{5.8} = 600$

一ヶ年 = 換算スバ

普通法 844 回

合併法 1,200 回

200 瓩混鉄 = 基 = 合併可能加能力 $\frac{2539}{600} = 4.23 \text{ 基平炉}$

約平炉四基ト見做スコトヲ得

300 瓩混鉄炉 = 一基 = 平炉三基ト見ルヲ得ベシ

(1) 熔鉄豊富ナル場合 200 瓩 = 基 300 瓩一基当全部

合併可能ナル場合

普通法 $844 \times 3 \times 65 = 165,000$ 300 瓩混鉄増設 = コト

合併法 $1,200 \times 7 \times 65 = 546,000$ 648,000 瓩 = コト

日本製鐵株式会社

710,000 瓩 = 増加

計 710,000 即チ 620,000 瓩増加

但シ三基 = 對シテ現状通割合ノ層鋼ヲ供給シ得ルモト

トス

(2) 300 瓩混鉄 = 熔鉄不足ノ爲平炉トシテ使用スル場合

300 瓩混鉄炉 $120 \times 1 \times 800 = 96,000$

$844 \times 6 \times 65 = 330,000$

$1,200 \times 4 \times 65 = 312,000$

計 738,000

即チ 738,000 - 710,000 = 28,000 瓩ノ増加

300 瓩混鉄ヲ増設シテ平炉トシテ使用スルトナハ

約 738,000 - 648,000 = 90,000 瓩ノ増加トナル

0000 0114

第八期成績 = ヌル場合

(A) 第三製鋼

製鋼時間一炉当 普通法 22,270 + 合併法 1,683 = 3,422
ヶ基

一炉当製鋼回数

普通法 $\frac{3,422}{6.53} = 524$

合併法 $\frac{3,422}{4.7} = 728$

一ヶ年 = 換算ビテ

普通法の場合 1,050 回数

合併法の場合 1,456 回数

現在 1,200 吨混鉄炉ハ主トシテ「ケルボット」ト合併ヲトス
 スヲ以テ余リ余裕ナキモ $\frac{3,544}{728}$ (第八期) = 4.89 = 4.5
 基本炉ト合併スルモノトス

(1) 熔鉄ガ豊富ナル時ハ 300 吨混鉄ハニ製鋼ト同様
 三基ト合併スルモノトシ

日本製鐵株式会社

普通法 1,050 × 3.5 × 62 = 228,000 300 吨混鉄

合併法 1,456 × 3.5 × 64 = 326,000 増設 = ヌリ

ケルボット 180,000 734,000 - 648,000

計 734,000 = 86,000 吨 1ヶ年 増加トス

(2) 300 吨ヲ平炉トシテ使用スル場合

300 吨混鉄 1,200 × 1 × 1,000 = 120,000 吨

普通法 1,050 × 6.5 × 62 = 423,000 "

合併法 1,456 × 6.5 × 64 = 497,000

ケルボット 180,000

計 770,000

即チ 300 吨ヲ平炉トシテ使用スルトハ 36,000 吨増加トスル
 但シ此の場合 300 吨混鉄平炉及普通ニハ現狀通リ割合ノ
 層鋼ヲ使用スルモノトス

即チ此の場合ハ 750,000 - 648,000 = 102,000 吨 増加トス

$50 \text{ T} \times 3$
 $60 \text{ T} \times 2$
 $300 \text{ T} \times 1$

第四製鋼

} 300,000

(A) (1) 熔銑充分ナル場合

300 瓩混銑ハ才ニ、第三ノ例ノ通リ平炉ト三基ト合併可能
 ナルニシテ合併法一炉ニ、製鋼四敦ハ第二製鋼通リ
 1,200 回トス

合併法 $60 \times 2 \times 1,200 + 50 \times 1 \times 1,200 = 204,000$

普通法 $50 \times 2 \times 844 = 84,400$

計 $288,400$

(2) 混銑ノ平炉トシテナル場合 $\div 300,000 \text{ 回}$

平炉 $(60 \times 2 + 50 \times 3) \times 844 = 228,000$

混銑平炉 $120 \times 1 \times 800 = 96,000$

計 $324,000$

故ニ $324,000 - 300,000 = 24,000$ 瓩増加即チ混銑

日本製鐵株式會社

炉ト平炉トニ使用ナルトハ、24,000 瓩ノ増加トナル

(B) 更ニ 300 瓩混銑一基 60 瓩平炉ニ基テ増設ノ場合

(1) 熔銑豊富ニシテ全部合併法可能ノ場合

普通法 $50 \times 1 \times 844 = 42,000$ 瓩

合併法 $60 \times 4 \times 1,200 + 50 \times 2 \times 1,200 = 408,000$ 瓩

計 $450,000$

(2) 熔銑不足ニシテ 300 瓩混銑ニ基テ平炉トニ使用ナル場合

普通法 $(60 \times 4 + 50 \times 3) \times 844 = 329,000$

混銑 $120 \times 2 \times 800 = 192,000$

計 $521,000$

300 瓩混銑ニ基テ平炉トニ使用ナル場合ハ合併トシ

タル場合ヨリ $521,000 - 450,000 = 71,000$ 瓩ノ増加トナル

補説工率ノ 300 瓩混銑一基 60 瓩平炉ニ基テ増加ニシテ

(A) 全部普通法ニシタル場合

521,000 - 324,000 = 197,000 吨增加

(b) 60吨平炉=基, 300吨混铁=基、合併法=3) 補設工事, 混铁=基 60吨平炉=基+普通法=3) 場合

60 x 2 x 844 = 101,000

120 x 1 x 800 = 96,000

計 197,000 吨增加トナル

(c) 全部合併法=3) 場合

450,000 - 300,000 = 150,000 吨增加トナル

結論

300吨混铁=基増設=3) 普通法=對シテハ現狀通リ
層鋼, 割合ヲ保持スベキトナル

第一製鋼=於テ (1) 混铁トナリ使用スル場合 62,000 吨增加

(2) 平炉トナリ " 90,000 "

第二製鋼=於テ (1) 混铁トナリ " 86,000 "

日本製鐵株式会社

(2) 平炉トナリ " 122,000 "

第四製鋼 (1) 現在全部合併法=3) 補設設備ニ

亦合併法=3) 場合 150,000 吨增加

(2) 現在全部普通法=3) 補設設備
モ亦普通法=3) 場合 197,000 吨增加

13年10月初×=補設設備完成スルモ補設設備、普通法

=依ルモノトスルバ 13年10月~12月迄、増加ハ

$\frac{3}{12}(90,000 + 122,000 + 197,000) = 102,000$ 吨增加

12年、生産見込 2,317,000 吨=對シ

13年、" 2,317,000 + 102,000 = 2,419,000 吨

(鋼鐵生産見込表 (昭12.8.2) 2,472,000 吨トナル、第四製

鋼 410,000 吨トナル見込ニ相異ニ依ル、實際ハ、四製鋼

ハ 350,000 吨程度ナリ 即チ 60,000 吨内外見込相違トナリ之

四製鋼ト合併法=依リテ場合、一ヶ年分全部ヲ取リテトナリカ?)

補設設備完成後全部併法=3工場1生産見込

	一 案	二 案
新第一製鋼	350,000	350,000
旧第一製鋼	280,000	280,000
第二製鋼	692,000	422,000
第三製鋼	716,000	546,000
第四製鋼	450,000	450,000
鑄工場	24,000	24,000
電炉工場	40,000	40,000
ルツボ	3,000	3,000
合 計	2,555,000	2,615,000

日本製鐵株式會社